

原子力の自主的安全性向上に向けた取組みについて

2026年3月19日
電気事業連合会

私ども原子力事業者は、福島第一原子力発電所のような事故を二度と起こさないとの強い決意の下、原子力発電が有する特性とリスクを常に認識し、新規制基準への適合に留まることなく、自主的かつ継続的に安全性の向上に努めてきた。

2025年2月に閣議決定された「第7次エネルギー基本計画」では、原子力の活用の大前提として、産業界全体での自主的かつ不断の安全性追求が位置付けられるとともに、同年5月に制定された運転期間延長にかかる審査基準においても、事業者の安全性向上に対する不断の改善が明記された。

今回、原子力の安全性向上におけるトップコミットメントの重要性に鑑み、原子力事業者および外部団体である原子力エネルギー協議会（ATENA）、原子力安全推進協会（JANSI）および電力中央研究所・原子力リスク研究センター（NRRC）のトップが一堂に会し、1月5日に公表された中部電力株式会社による、浜岡原子力発電所の新規制基準適合性審査における基準地震動策定に係る不適切事案も踏まえ、自主的に安全性向上の取組みを進めるうえで、それぞれが果たすべき役割や新たな取組みなどについて議論を行った。

具体的には、我々原子力事業者は、一つの不適切事案が原子力に対する信頼を揺るがし、事業全体に影響を及ぼすことを肝に銘じ、適切に事業運営に努めなければならないことについて、改めて認識を共有し、決意を新たにした。

また、原子力発電所のさらなる安全性向上に向けて、自ら改善の取組みを進めるなど、引き続き不断に安全性を追求すること。さらには、原子力の最大限の活用に向けて、安全な長期運転に向けた経年劣化管理の取組みも含め、発電所を安全に運営するための施策など、各機関と連携して、以下の取組みを実施していくことを改めて確認した。

- ✓ ATENAと連携した運転中保全の適用範囲拡大とさらなるリスク情報活用に向けた取組み、革新軽水炉導入に向けた規制との議論結果の反映と予見性向上への取組み、浜岡原子力発電所の基準地震動策定に係る事案への取組みなど
- ✓ JANSIと連携した厳格かつ効果的・効率的ピアレビューの追求とピアレビューの指摘に基づく改善、日常的な発電所パフォーマンスの監視・評価と改善、技量の維持・向上のための効果的・効率的な教育・訓練の追求、浜岡原子力発電所の基準地震動策定に係る事案から得られた教訓の展開など
- ✓ NRRCと連携したリスク評価手法の高度化と実機適用の促進、リスク情報を活用した意思決定の一層の定着およびリスク情報の活用対象の拡大など

私ども原子力事業者は、原子燃料サイクルを確立し、将来にわたって原子力発電を活用していくことが重要と考えており、今後とも自主的に安全性を追求していく。また、リスク情報の説明も含め、立地地域をはじめ広く社会の皆さまとの積極的なコミュニケーションに努めてまいる。